

2024年2月29日

2023年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

修士論文

メンタルヘルスの不調を抱える母親と共に子どもを育てる父親の体験

Experiences of Fathers Raising Children with Mothers

Who Are Living with Mental Health Issues

学籍番号 21MN304

氏名 内村 二三代

## 【目的】

本研究の目的は、メンタルヘルスの不調を抱える母親と共に子どもを育てる父親の、妊娠・出産期及び乳幼児の育児期の体験の語りを分析し、父親がどのような体験をし、どのように受け止めているか、そのプロセスを明らかにすることによって、メンタルヘルスの不調を抱える母親と共に子どもを育てる父親に関する支援の示唆を得ることである。

## 【方法】

修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを基にデータを分析した質的記述的研究である。対象者は、メンタルヘルスの不調を抱える母親と共に子どもを育てる父親5名程度とし、データ収集は半構造化インタビューを行った。聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。(承認番号：23-A019)

## 【結果】

4人の対象者にインタビューを1～2回実施し平均時間は104分(範囲77～166分)だった。メンタルヘルスの不調を抱える母親と共に子どもを育てる父親の体験は【自分の“普通”の日常に育児を落とし込む】プロセスであった。出産前は【育児をする母親をサポートすることをなんとなくイメージ】し、子どもが誕生すると【母親を献身的に支えようと頑張る】が、母親の体調不良によって、働き方を変えるなど【母子優先の生活に変えることを決断する】。父親は【母子優先の生活による葛藤やストレスに苦しむ】が、【困難な状況になんとか自分を適応させようと頑張る】ながら育児に慣れ、家事育児がルーチン化し、仕事と同じように【自分にとっての“普通”の日常に育児を落とし込む】ようになっていた。父親の[自分にとっての“普通”の日常]とは、子どものため賞賛されなくても家事育児をやり続ける日常であり、母子と一緒にいる家族の日常が自然体で無理がなく、母子と共にいることが幸せであると感じられる日常であり、父親は『家族の核となる育児の当事者』になっていた。

## 【結論】

【自分にとっての“普通”の日常に育児を落とし込む】プロセスによって、育児が父親にとって「大変だが、孤独を感じない」ものになっていた。しかし、メンタルヘルスの不調を抱える母親と共に子どもを育てる父親は、母親のケアと育児のダブルケアラーであり、社会や支援者から存在を見落とされ、必要な支援につながらない状況があった。父親の“普通”の日常に、必要な支援が組み込まれ、父親個人の生活の質の向上も家族の幸せも叶えられるように、保健師は家族をまるごと支援できる存在として、母子だけでなく、父親のケアの実情を把握し理解しようと、父親とその家族に寄り添い共にあることが必要である。